

次第

- 令和5年度 第4回 富士見町地球温暖化対策推進委員会 -

日時：令和6年1月26日（金）10：00～

場所：富士見町役場 3階会議室

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 事

(1) 富士見町脱炭素ビジョン（完成版）の説明について

(2) 来年度に向けた今後の予定と意見交換について

(3) その他

4. その他

5. 閉 会



■富士見町脱炭素ビジョンの策定に係る本委員会の活動経過について（資料①）

○令和5年7月11日 富士見町地球温暖化対策推進委員会の設立、第1回委員会の開催（資料①P2-17）

- ・委員会設立の背景及び委員会設置要綱の説明
- ・委員会の役割及び町の目指す姿の共有
- ・富士見町脱炭素ビジョンの概要についての意見交換

○令和5年9月5日～22日 町民アンケートの実施

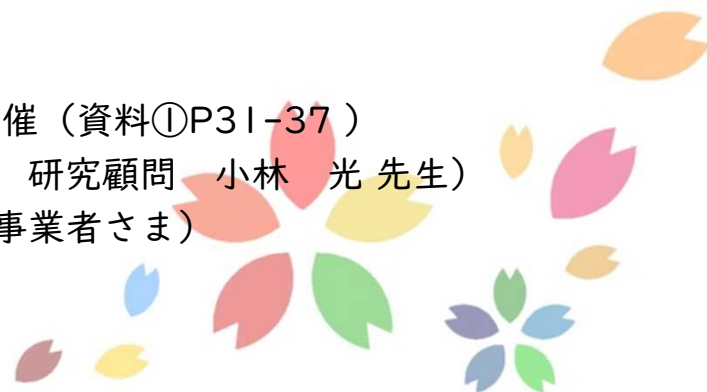
- ・対象は、町内在住18歳～79歳の男女（無作為抽出）
- ・配布数800通→回答数305通（回収率38.1%）

○令和5年10月6日 第2回委員会の開催（資料①P18-30）

- ・町民アンケートを含む各種調査結果の共有
- ・ゼロカーボンに向けた課題等についての総合的な議論

○令和5年11月7日 富士見町地球温暖化対策推進セミナーの開催（資料①P31-37）

- ・第1部 基調講演（講師 東京大学先端科学技術研究センター 研究顧問 小林 光 先生）
- ・第2部 パネルディスカッション（パネラー 町内の建築関係事業者さま）
- ・第3部 ワークショップ（参加者の皆さま）



議事録

3. (1) 富士見町脱炭素ビジョン（完成版）の説明について

○令和5年12月18日 第3回委員会の開催（資料①P38-47）

- ・パブリックコメント結果の共有
- ・富士見町脱炭素ビジョン（案）についての意見交換

○令和5年12月27日 富士見町議会議員向け勉強会

- ・富士見町脱炭素ビジョン（案）の概要説明
- ・議員の皆さまとの意見交換

○令和6年1月26日 第4回委員会の開催（本日）

- ・富士見町脱炭素ビジョン（完成版）の説明
- ・来年度に向けた今後の予定と意見交換

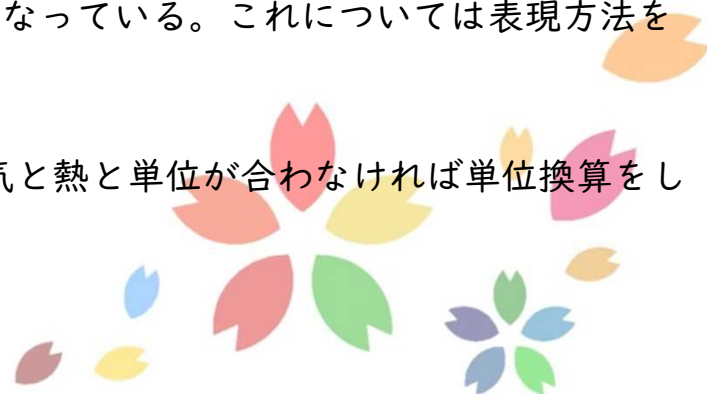
⇒このように、委員会会議をはじめ、町民アンケート、パブリックコメント、セミナーワークショップ、議員の皆さまからのご意見や、委員会を傍聴いただいた皆さまからのご意見など、非常に多くの皆さまからご意見をいただきながら、この富士見町脱炭素ビジョンの策定を進めてきた。



- 富士見町脱炭素ビジョン（概要版）の説明（資料②）
- 富士見町脱炭素ビジョンの説明（資料③）

○ 質疑応答・意見

- ・ 資料③P28の表5で木質バイオマスの導入ポテンシャルの記載がないのはなぜか。推計が難しいのであれば注記した方がよい。（質問・意見）
⇒ 木質バイオマスについては参照したREPOSにおいて公表されたデータがなく記載が困難。注記をさせていただきます。（回答）
- ・ 資料③P60の図55でバイオ熱が2040年度まではゼロで、2050年度に6.72TJになっている。2040年度までゼロというのはおかしい。現時点でも薪ストーブなど実際はエネルギー消費があるはず。このバイオ熱は、富士見町にとっても今後チャンスであり鍵になる部分なのでしっかり書いていただきたい。（意見）
⇒ 2040年度までは公表されたデータがなくこのような記載になっている。これについては表現方法を変更して違和感のない図にしたい。（回答）
- ・ 資料③P62の図57でも再エネ電気のみで熱の記載がない。電気と熱と単位が合わなければ単位換算をして熱も加えるべき。（意見）
⇒ 単位をJに換算して熱も含めた数値に修正する。（回答）



議事録

3. (1) 富士見町脱炭素ビジョン（完成版）の説明について

- ・資料③P66で地域循環共生圏の記載があるが、用語集P94の解説では不十分。地域循環共生圏を分かりやすく解説したページを加えるとともに、用語集の解説も修正すべき。（意見）
⇒追記内容についてアドバイスをいただきながら、分かりやすい表現にしたい。（回答）
- ・今回、太陽光発電・小水力発電・風力発電・バイオマス発電のポテンシャル調査を実施しているが、太陽光は水力と比べて発電効率が悪い。そういった説明も書いた方が分かりやすい。（意見）
- ・資料③P50の表12で製造業の割合が多いのが分かる。そういった意味で製造業を産業部門から切り分けた方がよいのでは。（意見）
- ・資料③P62の図58において、2050年度の目標値（16.07千t-CO2）が見えたことで、森林整備等の方向性を考えることができるのでありがたい。（意見）
- ・資料②の概要版について、これが独り歩きする可能性を考えてもう少しブラッシュアップすべき。例えば、柱書と記載が重複するが第1項の目的の部分はもっとしっかりと書いた方がよい。それから、第3項の円グラフは数値によって円の大きさを変えた方がイメージが伝わりやすい。また、現状の再エネのほとんどがFIT売電だと思うので環境価値が町に落ちていないことも注記した方がよいのでは。（意見）



議事録

3. (1) 富士見町脱炭素ビジョン（完成版）の説明について

- ・資料②の概要版（裏面）について、第5項の図を見ると、何もしなくてもゼロカーボンが達成できるような安心感が生まれてしまう可能性がある。県の施策を富士見町がきちっと実行することでゼロカーボンが達成できるといった表現にした方がよい。（意見）
⇒概要版については、より分かりやすく丁寧な表現にすることを検討する。（回答）
- ・資料③の方では、先ほども意見があったが、バイオマス熱利用や太陽熱利用は数値的にも期待できる分野なので、来年度の実行計画にしっかりボタンタッチ出来るような表記にしていきたい。（意見）
- ・資料③P51の家庭分野で表記が分かりにくい部分がある。（意見）
- ・資料③P55-56に森林吸収・炭素固定の推計結果が記載させているが、炭素固定した木材をどこで使っても定量化できるものか。例えば、富士見町の森林から切り出した木材を東京で住宅建築に使用した場合、どちらでカウントするのか。（質問）
⇒林野庁の基準によると利用側にカウントされる。なので、出来るだけ町内で利用することで富士見町のCO2削減につながる。（回答）
- ・資料③P69の図63で脱炭素ロードマップが示されているが、来年度以降、富士見町で実行計画を策定する際に、実際に富士見町で出来ることがどれだけあるか、何がどれだけ効くか、大変悩ましい部分だと思う。実行計画を策定する際には、県にも協力を仰ぎ、県から富士見町へ期待することなども確認できるとよいと思う。（意見）

- ・資料②の概要版にも記載があるように、この脱炭素ビジョンの策定によって「自然環境と共生しながら脱炭素で豊かな暮らしを実現するまち」という目指す姿や、5つの基本方針が定まったことは成果である。この軸がブレないように来年度の実行計画の策定につなげていくことが大切。（意見）
- ・来年度の実行計画の策定においては、産業部門のCO2排出量削減が重要になる。大企業は県の制度において削減が求められているが、富士見町に多くある中小企業は県の制度の対象外となっている。この部分を町の施策で減らしていく必要がある。そしてただ減らせと言うのではなく、資料③P66の方針④にもあるように、脱炭素を通じた産業競争力の強化につなげることが非常に重要となる。（意見）
- ・資料③P67-68の図表ですが、農業・林業もちろん重要だが建設業・製造業の事もここにきちんと書いた方がよい。（意見）
⇒ご指摘の図表へ建設業・製造業の追記を検討する。（回答）
- ・資料①ではセミナーの事が書かれているが、資料③の脱炭素ビジョンにも載せて欲しい。（意見）
⇒第7章の参考資料にセミナーの議事録をまとめ直して入れる。（回答）



議事録

3. (3) その他

■委員の皆さまからの連絡事項について

○小林先生、中島副委員長より（PPA勉強会のご案内）

- ・諏訪地域再生可能エネルギー事業化研究会の主催で、2月27日に諏訪商工会館において、PPA勉強会を開催する。
- ・環境省から講師を招き、「公共施設などでの初期投資ゼロ（PPA）での太陽光発電の導入の仕方を学ぶ」勉強会となる。参加無料なので興味がある方はぜひ参加を。

